

理解度&釣れる度 100%

丸

マルキュー

優良 餌本



へらエサ パワーグッズ



Contents

- 02 「粘麩」特徴解説
- 04 「凍麩」特徴解説
- 06 両ダンゴの浅ダナ釣り
- 10 両ダンゴのチョーテン釣り
- 14 「ヒゲトロ」セットの浅ダナ釣り
- 16 「ヒゲトロ」セットのチョーテン釣り
- 18 両ダンゴの底釣り
- 19 へらエサ性質表

夏秋
2015号

HERA BAIT POWER BOOK

「粘麩」

エサ持ちを良くする新感覚のネバ系エサ

「粘麩」の特徴

ブレンドの主役となるタイプのエサではありませんが、使い慣れたいつものブレンドにカップ1杯加えるだけで、非常にエサ付けしやすいため、今まで使っていたエサを作ることもできます。しかもたくさんのエアーを含んだエサに仕上がるため、ネバ系エサにありがちな目詰まり感がなく、素材自体は比重があるのに水中では軽いエサと同じような漂い感を演出します。さらに手を加えずとネバリすぎるとか、いじつてしまうとエサがダメになると言われがちなネバ系エ

サとは大きな違いがあります。「粘麩」は手水を加えながらどんどん練り込むことでサラッとしたタツチに変化し、しかも従来のネバ系エサ以上のエサ持ち力を発揮するので、今まで使いこなせなかったような極ワタツチのエサが使えるようになり、カラツンの抑制に大きな効果が期待できるでしょう。



基本ブレンドの動画はこちらへアクセス！

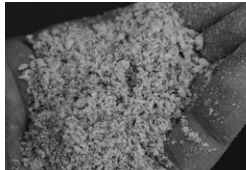


水中イメージ動画はこちらへアクセス！

使い方のコツ

粘・まとまると言われる特性を持つエサは他にもありますが、「粘麩」には既存の麩材にはない独特なネバリがあります。この特製を最大限生かすためには比較的バラける麩材との組み合わせが適しており、特に昨年大ヒットした「凄麩」との相性がかなり良いです。その要因は「凄麩」が強烈な個性を持たない、いわば何の変哲もない普通の麩材のようであり、その中身は極めて調整幅が広い、いじれる。麩材であるからに他なりません。いじれるという点では「粘麩」も負けていませんので、いじれるモノ同士の組み合わせには限界はなく、従来のブレ

ンドでは体感したことのないような新境地に到達できるかもしれません。 コツについては、自由に扱ってもらえば良いのですが、強いて挙げるとすれば、各自が標準とするエサ付けサイズ・エサ打ちペースで1時間を用途に使い切る程度少量ずつ作り、エサの表面を乾燥させないように注意することくらいでしょう。



使用方の

またブレンドの際にはあれこれたくさん混ぜ合わせるのではなく、まず「粘麩」をカップ1杯水で溶き、それに軸となる麩材を1品種、多くても2品種に止め、総量として2〜3杯加えると安定した良いエサに仕上がります。さらにネバリ加減は「粘麩」の量でコントロールすると簡単で、基本は「粘麩」1…水1…麩材2〜3ですが、ネバリが強すぎるときは「粘麩」0.5…水1…麩材2.5〜3.5とし、ネバリが不足していると感じたときは「粘麩」1.5…水1…麩材1.5〜2.5とするとネバリ加減が調整しやすくなります。

オススメブレンド素材

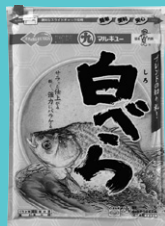
① 「凄麩」 「バラケマッハ」

タナに関係なく相性が良いのが「凄麩」ですが、どちらかと言えば両ダンゴのチョーチン釣りで、その威力を発揮すると思います。また「バラケマッハ」をブレンドすることで、ネバリの中にもボソ感を維持した、従来のエサにはなかったタッチのエサに仕上がるので、集魚力に優れたくわせタッチのダンゴエサとして期待できるでしょう。



② 「白べら」 「もじり」

現代の両ダンゴの浅ダナ釣りでは軽めのヤワネバタッチが主流ですので、練らずにネバリが加わる「粘麩」の特性が大きな武器になるでしょう。しかも練っても嫌なネバリがでることなく、サラッとした不思議なタッチで確実にエサを保持しますので、そのポテンシャルを十分に引き出すには「白べら」や「もじり」などのクセのない麩材とのブレンドが適しています。



③ 「パワー・X」

基本的には両ダンゴ向きのエサですが、ダンゴタッチのバラケがマッチするヒゲトロセットにも使えます。その際、「粘麩」とは対極の特性を持つ最強セット用バラケである「パワー・X」と組み合わせると、お互いの持つ強烈な個性が融合しそれぞれの良いところが引き出せるので、ヒゲトロセットの新たなアプローチが生み出されるかも知れません。



「凄麩」

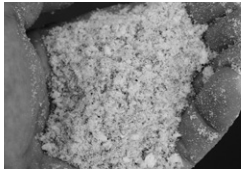
ボソタッチでも芯残りする唯一無二のエサ

「凄麩」の特徴

ボソタッチでありながら、芯残りが良いところが最大の特徴です。一般的にボソタッチのエサは開きが早く、水中では急速に吸水しエサの芯は砕けてしましますが、「凄麩」はボソに仕上げればもちろん、練っても開きが良く高集魚性を維持したまま芯が残るので、良いアタリが持続するのです。

また調整幅が広いというメリットもあり、どんなに手を加えてもボソエサの特徴を失わないので、従来の麩エサでは調整が困難であった領域までタッチの幅を広げ

られるため、今まで攻略困難だった場合にも対応できるようにになりました。さらにブレンドする麩材の特徴を生かしつつ自らの特性を發揮できるため、どんなに個性の強い麩材との組み合わせであっても、お互いの特性を100%引き出すことが可能になるのです。



作り方 & 使い方の動画は
こちらへアクセス！

使い方のコツ

へらエサで大切なことは、何といってもエサが持つことです。特に両タンゴではどんなに激しくエサが叩かれ揉まれようとエサにいくつまで確実に芯残りしないといないとアタリはできません。これはなじめさせなければ持たせなければアタリがでないような盛期のセット釣りのバラケであっても同じことが言えます。

両タンゴエサはヤワネバタッチの傾向が続いていますが、この数年は以前ほど極端なものではなく、ネバリの中にも多少ボソ感が残っているものの方が反応が良いようで、こうしたことも「凄麩」の特徴が求められる背景にあるようです。なぜなら従来のボソタッチエサは開きが早く、その特徴を残したまま芯残りさせるということは正反対の性質を両立させることを意味し、こうしたエサに仕上げるためには相当のエサ勘と経験が必要だっ

たからです。

さて「凄麩」を使いこなすためのコツですが、特別なことをしなくても誰にでも容易に扱えるのも「凄麩」の特徴なので、とにかく思いのままにいじってみて、各自が自分の手に合うタッチに仕上げるのが大切です。なぜなら「凄麩」は練らなくてもまとまりがよく芯残りし、反対にどんなに練り込んでも開きを損なわないため、どのようなタッチに仕上げても、常に寄せながら釣り込むことが可能だからです。また「凄麩」の凄いところはそれだけではなく、ひとことと言って調整幅が広く経時変化が極めて少ないので、ブレンドするエサを選び好まない点も特筆もののなです。つまり「凄麩」をブレンドの核にすえたらうえて、今まで使い慣れたエサを加えるだけで自在にエサの持ち具合や開き加減をコントロールすることが可能なのです。

オススメブレンド素材

① 「天々」「パウダーベイトヘラ」

両ダンゴの釣りではへら鮎をねらいのタナに寄せて釣り込むことが肝心です。そのためには、エサを必要以上にバラけさせないでタナに届ける必要があります。それには開きを抑えるためのネバリがあってエサを持たせる効果のある「天々」、「パウダーベイトヘラ」、「ガッテン」が最適です。



② 「浅ダナー本」「ダンゴの底釣り夏」

近年の両ダンゴ釣りは、エサが持っていれば釣れるというほど、簡単ではなくなりました。エサが持っていることは大前提ですが、それに加え、重さや膨らみ具合などの調整が、より釣り込むには必要で、エサを軽くする場合は「浅ダナー本」、重くする場合は「ダンゴの底釣り夏」がオススメです。どちらも膨らみ方でアピールできるのも特徴です。



③ 「ペレ軽」

夏場に有効なペレット系の両ダンゴの宙釣り。浅ダナ・チョーチン問わず軽めのエサへの反応が良い近年のペレ宙ですが、エサのタッチを幅広く探らなければ安定した釣果は望めません。そんなライトペレ宙では「ペレ軽」と組み合わせれば思い切って手を加えられるので、硬めのネバボンから超ヤワネバタッチまで自由自在に探れます。



両ダンゴの浅ダナ釣り①

基本ブレンドパターン

基

凄麩 150cc + 天々 150cc +
水 100cc +
パウダーベイトヘラ 100cc



+



+



+



※水を入れた段階で30回程度よくかき混ぜる。

重さで持たせるパターン

重

凄麩 150cc + 天々 150cc +
水 100cc +
ダンゴの底釣り夏 100cc



+



+



+



※水を入れた段階で30回程度よくかき混ぜる。

軽さでウキを動かすパターン

軽

凄麩 150cc + 天々 150cc +
水 100cc +
浅ダンナー本 150cc



+



+



+



※水を入れた段階で 30 回程度よくかき混ぜる。

ブレンドの考え方

ベースエサ



凄麩 + 天々

ボンタッチで膨らみとエサ持ちを両立した「凄麩」にヤワネバタッチの「天々」をブレンドしこれをベースと考える。

基



標準的な重さの「パウダーベイトヘラ」を基本ブレンドとする。

重

軽

ウキのナジミが早すぎる時はエサを軽くして反応をだす。

魚が湧いてウキの入りが悪い時、練らずに重さで持たせる。



両ダンゴの浅ダナ釣り②

基本ブレンドパターン

基

粘麩 100cc + 水 100cc +
もじり 300cc



エサ持ちを良くするパターン

持

粘麩 100cc + 水 100cc +
パウダーベイトヘラ 300cc



軽くして上から追わせるパターン

軽

粘麩 100cc + 水 100cc +
軽麩 300cc



ブレンドの考え方

ベースエサ



粘麩

練ったエサへの反応が悪い時やカラツンになるときは、エアーを含んだまま粘るエサになる「粘麩」の出番。軟らかくしても使える。

基



「粘麩」の特徴をそのまま活かす「もじり」を基本ブレンドとする。

持



エサのナジミが悪い時は、まとまりやすいエサをブレンド。

軽

ウキの動き悪い時は、エサを軽くして上から追わせる。



両ダンゴのチョーチン釣り①

「凄麩」ベースの軽・重パターン

軽めで持つパターン

軽

凄麩 400cc +
ガッテン 400cc + 水 300cc +
パウダーベイトヘラ 400cc



+



+



+



重さで持たせるパターン

重

ダンゴの底釣り夏 200cc +
水 200cc + 凄麩 400cc +
パウダーベイトヘラ 200cc



+



+



+



ブレンドの考え方

ベースエサ



凄麩

軽

粘

重

粘



ボソタッチで芯残りする「凄麩」に軽くてネバリのある「ガッテン」と「パウダーベイトヘラ」をブレンドし、軽くて持つブレンドとなる。

ボソタッチで芯残りする「凄麩」に重さがある「ダンゴの底釣り」とネバリのある「パウダーベイトヘラ」をブレンドし、重さがあるブレンドとなる。

●エサの大きさ 実寸大

小さめ



大きめ



両ダンゴのチョーチン釣り②

オススメ「粘麩」ブレンド

基本パターン

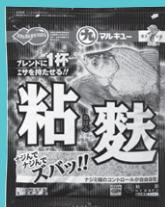
基

粘麩 100cc + 水 100cc +
スーパーダンゴ 300cc



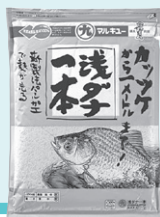
ブレンドの考え方

ベースエサ



まとまりとエサ持ちを高める「粘麩」には荒い粒子との組み合わせがよく、バラケ性もありながらダンゴエサとしても使える「スーパーダンゴ」との組み合わせを基本ベースとする。

粘麩 + スーパーダンゴ



軽

軽くしたいときは「浅ダナー本」をブレンド。

粘



エサ持ちを良くするとき「ガッテン」をブレンド。

軽くしてウキを動かすパターン

軽

粘麩 100cc + 水 100cc +
スーパーダンゴ 200cc +
浅ダナー本 100cc



+



+



+



エサ持ちを良くしたパターン

持

粘麩 100cc + 水 100cc +
スーパーダンゴ 200cc +
ガッテン 100cc



+



+



+



「ヒゲトロ」セットの 浅ダナ釣り



上から追わせる軽いパターン

軽

凄麩 200cc+

膨

スーパーダンゴ 200cc+

浅ダナー本 100cc+水 100cc



+



+



+



タナに厚く寄せる重いパターン

重

凄麩 200cc+ペレ道 100cc+

膨

浅ダナー本 100cc+水 100cc



+



+

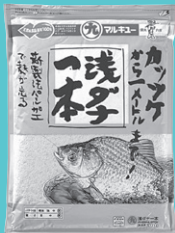


+



ブレンドの考え方

ベースエサ



ボソタッチで膨らみとエサ持ちを両立した「凄麩」に軽さと軟らかい芯持ちをする「浅ダナー一本」をブレンドし、バランスのとれたベースとなる。

凄麩＋浅ダナー一本

重



開

上から追わせて釣るために開きのある「スーパーダンゴ」をブレンド。

タナに厚く寄せて釣るために重くて集魚力が強い「ペレ道」をブレンド。



ブレンドの調整

右上の上から追わせるブレンドパターンで、ウキの動きが悪い時は開きを増やすために「浅ダナー一本」を「バラケマツハ」に替える。

凄麩 200cc＋スーパーダンゴ 200cc＋バラケマツハ 100cc＋水100cc

右下のタナに入れて釣るブレンドパターンで、ウキの動きが悪い時は軽くするために「浅ダナー一本」を「軽麩」に替える。

凄麩 200cc＋ペレ道 100cc＋軽麩 100cc＋水100cc



●エサの大きさ



実寸大

「ヒゲトロ」セットの チョーチン釣り



ボソっ気で反応させる寄せ重視パターン

寄

粘麩 100cc + 水 100cc +
パワー・X 200cc



ブレンドの考え方

ベースエサ



粘麩 + パワー・X

まとまりとエサ持ちを高める「粘麩」には荒い粒子との組み合わせがよく、その中でも強力なバラケ性を持つ「パワー・X」をブレンドすると、ネバリと開きのバランスが取れ、「ヒゲトロ」セットのバラケとして使える。

●エサの大きさ



実寸大

タナに厚く寄せる重いパターン

重

凄麩 200cc + ペレ道 100cc +
スーパーダンゴ 100cc + 水 100cc



+



+



+



ブレンドの考え方

開



ベースエサ



凄麩

ボンタッチで膨らみとエサ持ちを両立した「凄麩」の性質は、「ヒゲトロ」セットのバラケのベースにも最適なもの。

重

「凄麩」と比べて細かいバラケを演出するために「スーパーダンゴ」をブレンド。ウキのナジミが悪い時は「パウダーベイトスーパーセット」に替える。



タナに厚く寄せて釣るために重くて集魚力が強い「ペレ道」をブレンド。



両ダンゴの底釣り

「粘麩」ブレンド

“冬粒”パターンをより使いやすく

寄

粒戦 100cc＋
粘麩 50cc＋水 150cc＋
ダンゴの底釣り冬 100cc



+



+



+



ねっとり系で持つパターン

持

粘麩 100cc＋
バラケマツハ 100cc＋
ペレ底 100cc＋水 100cc



+



+

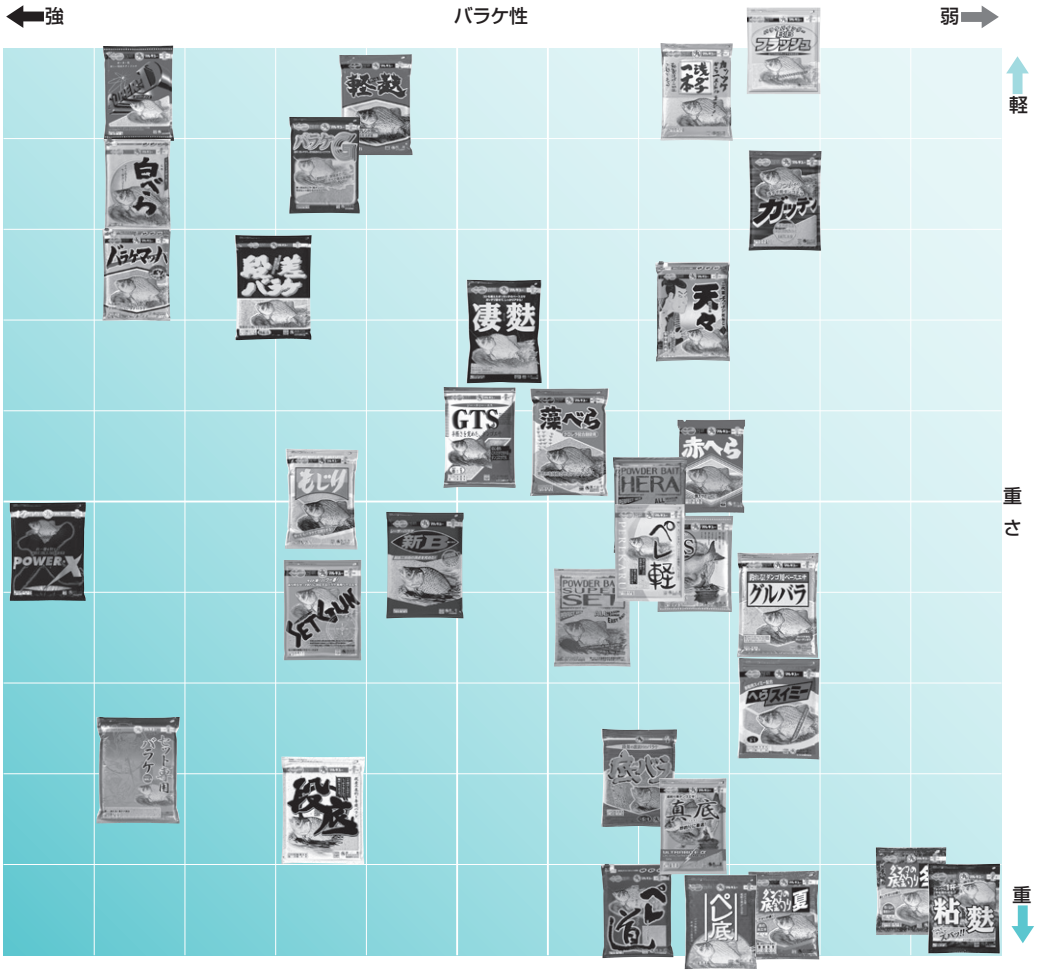


+



へらエサ性質表

麩系バラケ・共エサ



※データは、標準水量を加え、単品使用の当社実測によるものです。釣り場の状況や作り方、使い方により異なる場合がありますので、目安としてお使いください。

1杯で 新領域の 操作性。

ダンゴエサのブレンドに「粘麩」を1杯。
まず、まとまりの良さに頷く。そして、仕上がりの軽さに驚く。
さらに、エサ持ちの良さに頬が緩む。
重いのに軽く使える、調整域の広いエサ。
ナジミが出なくなったら、押し練りを加え、
ナジミ過ぎたら、どんどん手水を打って練り込んでいけばいい。
マルキューチーフインストラクター石井旭舟は言う、
「ナジミ幅のコントロールが簡単だから、
誰でもいい釣りになるよ」と。
エサ合わせによってウキを思い通りに動かす面白さ。
時合いが続き、大釣りが決まる達成感。
「粘麩」とともに、ぜひ味わっていただきたい。



おぼろ
●粘麩 320g (チャック袋)

石井旭舟のチョーチン両ダンゴエサパターン

「粘麩」200cc + 水200cc +
「凄麩」400cc + 「バラケマツハ」200cc

「粘麩」を水で溶いてから残りの麩材を加え、まんべんなく水が行き渡るように丁寧に攪拌する。

